

2024年4月26日

関係各位

野村ホールディングス株式会社
コード番号8604
東証プライム市場・名証プレミア市場

2024年3月期の連結決算について

野村ホールディングス株式会社(代表執行役社長 グループCEO:奥田健太郎、以下「当社」)の2024年3月期の通期(以下「当期」)および第4四半期(2024年1-3月、以下「当四半期」)の連結決算概要をお知らせします。

当期の収益合計(金融費用控除後、以下「収益合計」)は1兆5,620億円(前期比17%増)、当期純利益は1,659億円(同79%増)、ROEは5.1%となりました。また、当四半期の収益合計は4,451億円(前四半期比11%増、前年同期比37%増)、当期純利益は568億円(同12%増、7.7倍)、ROEは6.8%でした。

グループCEOの奥田健太郎は以下のように述べています。

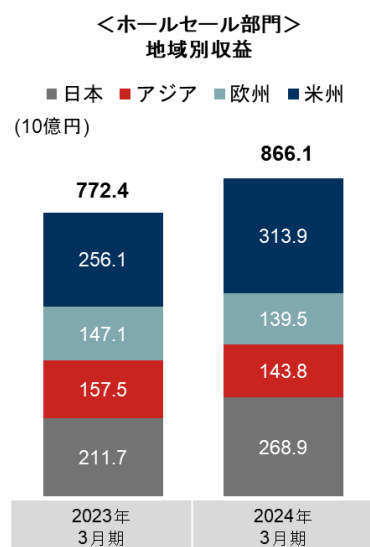
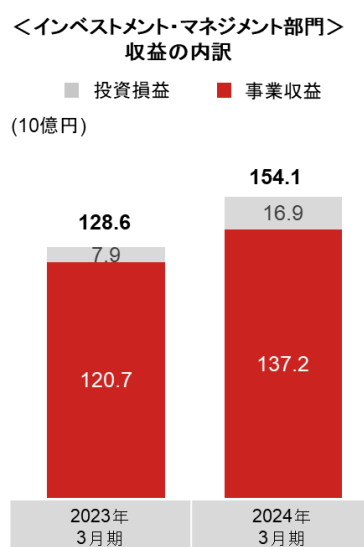
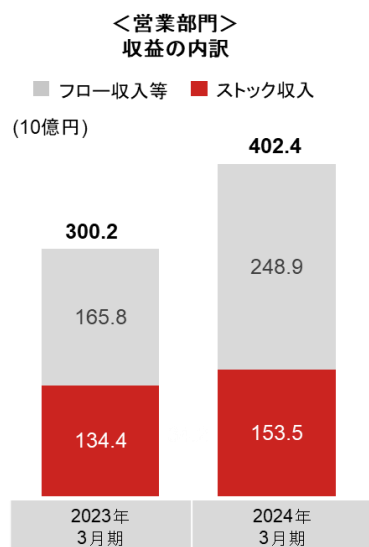
「当期は、すべてのビジネス部門が増収増益を達成しました。日本市場への注目が高まる中、国内での強固な顧客フランチャイズとグローバルネットワークの両方を併せ持つ当社の強みが発揮された結果となりました。期初に営業部門で実施した人員再配置が奏功し、ホールセール部門でもインベストメント・バンキングが大きく収益を拡大するなど、各部門や地域で業績の回復や好調さが確認されました。

本年4月1日に新たに策定したパーパスは、『金融資本市場の力で、世界と共に挑戦し、豊かな社会を実現する』です。その達成に向け、グローバルに競争力のある事業に注力し、部門間協働による付加価値の追求や成長分野への積極的な投資、コスト・コントロールの徹底により、企業価値の向上および持続的成長を実現させます」

<当期の主要3部門ハイライト>

- 主要3部門の税前利益は2,368億円(前期比123%増)でした。
- 営業部門は、資産管理によるストック型ビジネスへのシフトが進み、ストック収入が積み上がる一方、コスト水準を引き下げることで収益構造の安定化が進捗し、税前利益は2016年3月期以来8年ぶりの高水準となりました。
- インベストメント・マネジメント部門は、資金純流入(3.8兆円)、運用資産残高(89兆円)ともに2025年3月期KPI目標を上回って進捗、投資損益も前期比で倍増となりました。
- ホールセール部門は、下半期に業績モメンタムが回復しました。グローバル・マーケットはスプレッド・プロダクトやエクイティ・プロダクトが回復し、前期比8%増収、インベストメント・バンキングは日本関連ECMやアドバイザーを中心にすべてのビジネスで収益が伸長し、比較可能な2017年3月期以降で最高の収益となりました。

	収益合計(金融費用控除後)		税前利益(損失)	
	当期	前期比	当期	前期比
営業部門	4,024億円	+34%	1,227億円	3.7倍
インベストメント・ マネジメント部門	1,541億円	+20%	602億円	+38%
ホールセール部門	8,661億円	+12%	539億円	+84%
合計	14,227億円	+18%	2,368億円	+123%



決算概要

<当期>

全社

- 税前利益は2,739億円と前期比83%の増益でした。
- EPSは52.69円(前期比77%増)、ROEは5.1%(前期は3.1%)となりました。
- 2024年3月末日を基準日とする配当金(支払い開始日:2024年6月3日)は1株当たり15円とし、当期の配当額は23円となります。

	2024年3月期	前期比
収益合計 (金融費用控除後)	1兆5,620億円	+17%
税前利益(損失)	2,739億円	+83%
当期純利益(損失)	1,659億円	+79%

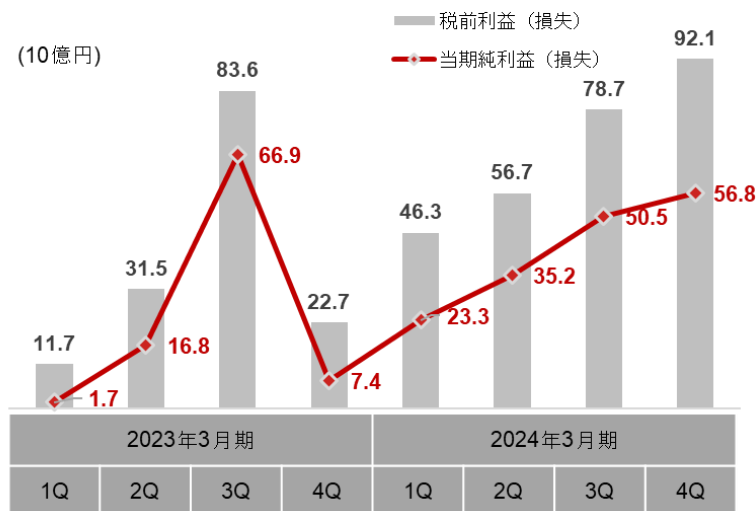
<当四半期>

全社

- 全社の税前利益は921億円(前四半期比17%増)、当期純利益は568億円(同12%増)でした。
- EPSは18.02円(同12%増)、ROEは6.8%(前四半期は6.2%)となりました。
- 営業部門は2022年4-6月期をボトムに増益モメンタムが継続、インベストメント・マネジメント部門も運用ビジネスが好調となり、主要3部門の税前利益は771億円(同9%増)となりました。

	当四半期	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	4,451億円	+11%	+37%
税前利益(損失)	921億円	+17%	4.1倍
当期純利益(損失)	568億円	+12%	7.7倍

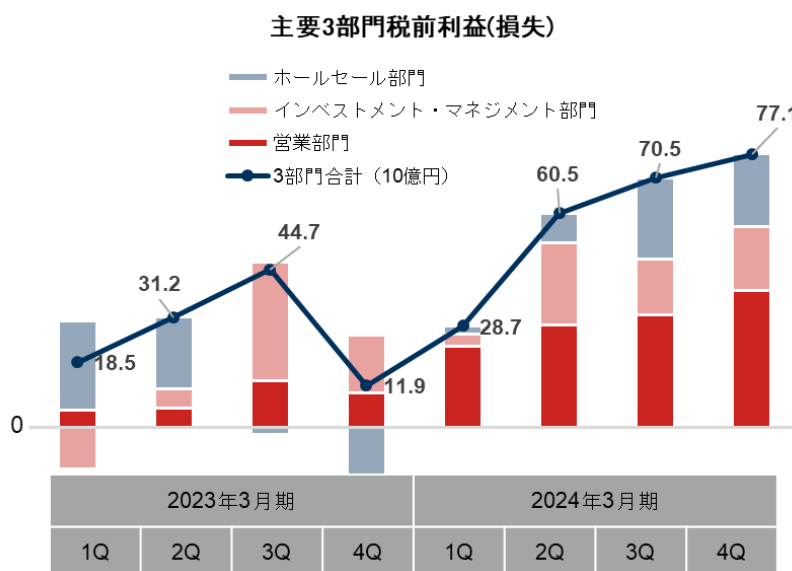
全社の税前利益(損失)、当期純利益(損失)



主要3部門

- 営業部門は、安定収益であるストック収入は過去最高を更新、国内株式市場の活況や新NISA制度の開始による投資家センチメントの高まりを背景に、フロー収入等も伸長しました。収益が前四半期比で伸びるなか、費用を抑制し、税前利益は2015年4-6月期以来の高水準となりました。
- インベストメント・マネジメント部門は、資金純流入を伴って運用資産残高(89兆円)は過去最高を更新、安定収益である事業収益も比較可能な2021年4月(部門設立)以降で最高となるなど、アセットマネジメント・ビジネスが好調でした。
- ホールセール部門は、グローバル・マーケットがすべての地域で前四半期比増収、インベストメント・バンキングも比較可能な2017年3月期以降で最高の四半期収益となりました。部門費用の増加については、業績に応じた変動費増加に加え、業者との取引における決済不履行に伴う貸倒引当(約140億円)の計上や期末要因等です。

	収益合計(金融費用控除後)			税前利益(損失)		
	当四半期	前四半期比	前年同期比	当四半期	前四半期比	前年同期比
営業部門	1,088億円	+6%	+44%	388億円	+21%	3.9倍
インベストメント・マネジメント部門	436億円	+12%	+15%	178億円	+14%	+9%
ホールセール部門	2,542億円	+17%	+42%	206億円	△10%	-
合計	4,065億円	+13%	+39%	771億円	+9%	6.5倍



【ご参考】

[2024年3月期決算短信](#)

[2024年3月期決算説明資料 米国会計基準\(US GAAP\)](#)

2024年4月26日付ニュースリリース「[剰余金の配当に関するお知らせ](#)」

以上

詳細につきましては、[当社ホームページ](#)にて掲載の決算短信および決算説明資料をご覧ください。また、本日(2024年4月26日)午後6時30分より、決算説明会(テレフォン・カンファレンス)を開催する予定です。この模様は、[当社ホームページ](#)を通じてライブ配信します。

本資料は、米国会計基準による2024年3月期通期および第4四半期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされています。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。なお、本資料で使用するデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。

本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。